

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、専攻の異なる学部生が少人数のグループを編成し、議論や課題解決にむけてのワーキングを展開する機会が数多く盛り込まれている点に特長があります。講義名の通り、全学インターンシップ・プログラムの関連科目に位置づけられており、3回生時に集中するインターンシップに向けて必要とされる教養、知識、スキルなどを幅広く学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

「基礎学習」では、インターンシップの精神に照らし、自らの専攻学問の再検証を目標とします。その上で、「実践学習」では、外部講師を招き現実課題に取り組むことで企画立案能力とプレゼンテーション能力を習得します。さらに、「発展学習」でインターンシップの受入先であるビジネス社会を科学的にとらえる視座を獲得します。その上で、「総括学習」では高倍率時代を迎えているインターンシップのエントリーを確実に通過できるための戦略的スキルなどを、専門家を招きマスターします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられています。そこで、同じ関連科目の「キャリア形成論」(1回生後期配当科目、衣笠開講)、「キャリア形成論」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもチャレンジしてください。

さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、BKC開講)も夏期集中講義として開講されますので、受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【基礎学習】	
第1回目	テーマ / キャリア教育考 (加藤 / 講義 + グループワーク)	概要 / 一人称から二人称へ。科学的な視座とは何かを学び、立命館大学のインターンシップ基本理念の精神を理解する。後半はグループワーク。
第2回目	テーマ / 理論と実践 (加藤)	概要 / 加藤の専門領域、労働経済学ライフスタイル論から見るインターンシップ検証。
第3回目	テーマ / 理論と実践 (楠奥)	概要 / 楠奥の専門領域、経営学職業心理学から見るインターンシップ検証。
第4回目	テーマ / 問題発見と課題解決に向けて (加藤、楠奥 / 講義 + グループワーク)	概要 / 論理的思考法、討論技法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
第5回目	テーマ / 問題発見と課題解決に向けて (加藤、楠奥 / 講義 + グループワーク)	概要 / 発想法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
	【実践学習(集中講義)】	
第6、7回目(11月第1週土曜)	テーマ / 企画立案への挑戦 (菅野聡之セガエンタテインメント施設開発統括部長、犬走泰信ららぼーとリテール事業部長 / 講義 + グループワーク)	概要 / 学外講師2名を招き、2教室に分かれ計4回の集中講義を実施。現実課題の企画立案にグループ単位で挑戦する。第6回目は、ビジネス社会における企画立案の重要性や、そこに求められる基礎知識や素養等をまず講師が指導。その上で、現実的な課題が講師から提示される。第7回目は、専攻学問の異なる顔ぶれのグループに分かれ、問題発見や課題解決に向けた議論を展開する。
第8、9回目(11月第4週土曜)	テーマ / 企画立案への挑戦 (同上 / グループ別発表と評価、総括)	概要 / 前回授業から3週間にわたりグループ別に取り組んできた企画立案の発表。終盤に、発表に対する評価コメントと総括が講師並びにコーディネーター教員からなされる。
	【発展学習】	
第10回目	テーマ / 「プロデューサー」として見る会社 (細井浩一 映像学部教授)	概要 / 従来のモノづくりの尺度で規定できる仕事から、多様な業務に対応可能な企画・制作ノウハウを多面的に併せ持つプロデューサー的人材への要請が高まっている。コンテンツ型人材の解析を通じ、インターンシップにおける望ましい学びについて考える。

第11回目	テーマ / 企業風土と企業文化 (ペルント・エン / 経営学部教授)	概要 / 文化とは、人間関係のあり方に関する暗黙のルールとして定義できる。ならば、企業文化とは、企業組織における個人と個人、又、個人と組織に関する暗黙のルールとなる。それはなぜ重視されるようになったか、又、そのルールはどのように形成されるか、そして文脈と組織によってどのように異なるかをテーマにする。それを通じ、企業組織のあり方及びそれに関する見方の複雑さと面白さを紹介したい。
第12回目	テーマ / 「会社」から見るインターンシップ (十倉良一京 都新聞社滋賀本社編集局長)	概要 / インターンシップの受入れ側は何を学生に求め、何を見ているのか。コーオプ演習などを通じて本学との間で様々なインターンシッププログラムを展開する学外講師を招き、インターンシップの客観的分析を試みる。
[総括学習]		
第13回目	テーマ / 戦略的エントリー法 (楠奥)	概要 / 高倍率のインターンシップエントリーに対処するための連続講義。1回目は論作文の作成法。小手先の文章作成スキルでは高倍率のエントリーを突破できない。講義では論理思考に基づく作文法をもとに「読み手の心に刺さる」文章の作成法を学習する。
第14回目	テーマ / 戦略的エントリー法 (加藤)	概要 / 連続講義の2回目はエントリーシートの作成法。1回目の授業で培われた基礎的文章力をもとに、エントリーシートを戦略的に作成するノウハウを学ぶ。
第15回目	テーマ / 大学での学びとインターンシップ (加藤、楠奥)	概要 / 最終講義では、サブタイトルの「就労と科学」に基づき総括を行うとともに、立命館大学のインターンシップ・プログラム、キャリア教育科目など幅広い学びの環境につき解説する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

インターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	「基礎学習」、「実践学習」、「発展学習」、「総括学習」の4つの学習カテゴリーの理解度を中心に評価します。
日常点・その他	80 %	出席状況、講義内レポート(企画立案発表を含む)、受講態度、の3要素をもとに評価します。なお、企画立案発表は、グループ単位で評価がなされます。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点の多くは、この出席要件で判断されますから、受講を機に、時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大規模教室でありながら、グループワークが数多く導入される講義です。グループワークは様々な形で評価に影響します。よって、常に能動的な受講意志を持つことが肝要です。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / 日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	/ 産学連携教育日本フォーラム / 国内外のインターンシップに関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。

主に「基礎学習」の参考書を3冊、挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

春期のインターンシップ・ガイダンスに参加すると、参加者全員に「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、インターンシップに関連するサイトが紹介されます。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されているインターンシップオフィスは情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。受講で得られた各種の能力、スキルを大いに生かすためにも。

キャリア形成特殊講義 SD

15322

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- (1) 民間企業のあらゆる業種・分野の職種調査と、その職種に求められる要件(資格・語学・アカデミックキャリア)の調査
- (2) 職種ピックアップとインタビュー
- (3) 調査に基づく議論、レポート作成、プレゼンテーション
- (4) 1グループ5名程度のグループワークとする

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまな業種、職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。またフィールドワークを伴う実践型の授業とし、論理力、分析力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を涵養する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	概要説明、業界・企業研究1	
第02回	業界・企業研究2	
第03回	業界・企業研究3	
第04回	業界・企業研究4	
第05回	業界・企業研究5	
第06回	フィールドワーク事前ガイダンス	
第07回	フィールドワーク1	
第08回	フィールドワーク2	
第09回	フィールドワーク3	
第10回	フィールドワーク4	
第11回	プレゼンテーション1	
第12回	プレゼンテーション2	
第13回	プレゼンテーション3	
第14回	プレゼンテーション4	
第15回	プレゼンテーション5	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

自らが取材する企業・業界についての研究をしっかりと行い、理解を深め、十分な準備をしてから、インタビューに臨むこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	授業への出席を重視します。第1回目の授業では授業の進め方、成績評価など重要な説明をしますので、必ず出席してください
P(合格)またはF(不合格)として評価する		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜指示する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
13歳のハローワーク	村上 龍 / 幻冬社 / /
はたらく青年	原田 宗典 / 角川文庫 / /
イラクの戦場で学んだこと	岸谷 美穂 / 岩波ジュニア文庫 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、総合大学としての立命館大学の英知を結集して組み立てられている点に最大の特長があります。学生数(大学院生含む)約3万5000人の日本有数の大規模総合大学、立命館大学には、国内外で高い評価を受けている優れた教員が数多く在籍しています。その一方で、3キャンパスに分かれていることもあり、他キャンパスの、さらには他学部の優れた英知に触れる機会に乏しいのが現状です。

このため、10学部中、新設の映像学部を除く9学部から研究・教育実績に定評のある優れた教員を講師として招き本講義を組み立てました。「立命館の英知」をぜひこの機会に学びとってください。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は二つです。

一つは、専攻学問の再検証です。入学以来の学習上のモチベーションはいかがですか？ 学生生活にも慣れ、学ぶ目的や目標を見失いやすい時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。今ここで、改めて所属する学部の教学を見直し、その社会的な意味や意義、何よりも学ぶ楽しさを再認識してほしいのです。教材は立命館の英知です。9学部の英知に触れることで、自らの専攻学問の再検証を図る。これが第一の到達目標です。

もう一つは、「会社」に対する負のイメージの科学的な払拭です。1980年代後半に生まれた皆さんは、成長期と日本経済の低迷期が見事に重なる世代で、会社に代表される経済組織に負のイメージを強く持つ世代であることが統計でも検証されています。本講義では、この偏ったイメージを3つの科学的カテゴリーから払拭します。会社は長い職業人生の舞台であり、皆さんの才能が発露される場でもあります。インターンシップや就職活動を控えたこの時期、ビジネス社会に前向きな気持ちで臨めるよう、科学的な視座を獲得するのが第二の到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられています。同じ関連科目の「キャリア形成論」(1回生前期配当科目、衣笠開講)、「キャリア形成論」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもチャレンジしてください。

さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、BKC開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ / 会社とは何者か (加藤、楠奥)	概要 / 副題「会社と科学」の会社とは、ビジネス社会の意。科学的なものの見方、考え方の基本を説く。 【経済学・経営学カテゴリー】
第2回目	テーマ / 「経済学」がとらえる会社と企業社会 (経済学部教員)	概要 / 会社 = 企業は経済の担い手の1つであり、経済社会に大きな影響を与えている。企業社会といわれるものには、会社内部で形成されている一種の社会という意味と、社会自体が企業中心の社会になっているという2つの意味がある。会社は市場を媒介にして、他の社会領域と関係を結び、またそれに影響を与えているので、ここでは、消費者問題を中心にして広く企業の社会的立場や役割について考える手がかりを提供したいと考える。
第3回目	テーマ / 「国際経済」の中の日本企業 (国際関係学部教員)	概要 / 企業が海外進出し、多国籍化していく原理は、それほど単純なものではない。この問題を、今日もっとも一般的な理論パラダイムとして受け入れられているJ. H. Dunningの折衷理論を柱にしながら、わかりやすく解説していく。具体例として、日経新聞を用いながら日本企業のケースを取り上げる。
第4回目	テーマ / 「現代経済の転換」と会社 (経済学部教員)	概要 / 経済のグローバル化は抗しがたい勢いで進行している。小泉構造改革は温情主義を廃し低生産性部門を切り捨て国際競争力を一層強化することで輸出主導型経済の維持を志向してきた。しかし大幅な貿易黒字と巨大金融債権を持つこの国において少子高齢化の進行と巨額の財政赤字のもと、持続可能な経済運営すら危ぶまれている。高度成長型経済システムから低成長下でも持続可能なシステムへの転換こそが取り組むべき課題であること、そしてそのなかでの日本企業の課題が何であるかを考えたい。
第5回目	テーマ / 「財務」から見た会社 (経営学部教員)	概要 / ディスクロージャー(財務内容の開示)は、企業の社会的評価を左右する重要な課題である。その中で最も有力な開示手段である「有価証券報告書」を使って、これを縦横に分析し、真の企業価値を読み解くのに不可欠な基本的な知識と考え方を学ぶ。

【法学カテゴリー】

第6回目	テーマ / 「商法(会社法)」と株式会社 (法学部教員)	概要 / 皆さんの中には卒業後会社に就職する人も、すぐにでも自分で会社を作りたいと考えている人もいます。会社に就職した人であっても、いずれ社長になれば自ら会社を運営することになる。会社の経営には多くの関係者が存在するため、その利害を調整する一定のルールが必要になる。会社法は会社に関する法的ルールを定めた法律である。この講義では、株式会社の経営に関する具体的な問題について、会社法の観点からできる限りわかりやすく説明する。
第7回目	テーマ / 「税法」と株式会社 (法学部教員)	概要 / 今回の講義では、受講生が将来就職して働く中でどのような課税上の扱いを受けるのか、給与所得者の所得課税について、その現状と問題点をとりあげたい。まず、給与所得課税の基本的仕組みを説明したうえで、給与所得控除やFRINGE・ベネフィット課税、源泉徴収・年末調整と給与所得者の確定申告権などの具体的な問題を納税者の視点から考える。加えて、最近議論となっているいわゆる「サラリーマン増税」の内容を批判的に紹介したいと思う。
第8回目	テーマ / 「経済法」と株式会社 (法学部教員)	概要 / 本講義では、独占禁止法が株式会社の事業活動にどのように関わってくるかを具体的に解説する。入札談合、メーカーないし輸入業者による小売業者への価格拘束、大規模小売業者による納入業者への不利益の強要、量販店による仕入れ値を割るほどの低価格販売等、具体例を挙げて、なぜ、株式会社は独占禁止法の順守に真剣に取り組まなければいけないかを実感してもらいたいと考えている。キーワードは、「公正かつ自由な競争」である。
【中間的総括】		
第9回目	テーマ / 経済学、経営学、法学を概観して (加藤、楠奥)	概要 / 3つの科学分野からの会社(ビジネス社会)へのアプローチを行った上で、専攻学問の異なる受講生で構成するグループによる学習検証のワーキングを行う。議論の成果をレポート提出する。
【総合科学カテゴリー】		
第10回目	テーマ / 「会社」の社会的役割 (政策科学部教員)	概要 / 日本だけでなく世界各国で企業の不祥事が多発している。このような状況で、企業が社会より信頼性を確保するためには、社会的責任を自覚し、それを反映した経営理念に準拠した企業活動を遂行する必要がある。本講では改めて、そもそも企業とは何か、企業が何を対象にどのように活動し何を求めるのか、社会に何を還元しうなのか、さらに、企業の社会的責任とは何か、に関して、その全体像を考察する。
第11回目	テーマ / 「NPO」法人と株式会社 (産業社会学部教員)	概要 / 1998年のNPO法施行以降、日本でもNPOが急速に台頭している。NPOという組織の株式会社と何が異なり、何が共通しているのかを明らかにする。同時に近年、「営利」「非営利」が融合し、新しい働き方が生まれている。また現在、多くの企業がNPOとのパートナーシップを進めており、この点についても論じていく。
第12回目	テーマ / 「社会情報システム」を通して (情報理工学部教員)	概要 / 認知工学の立場から、緊急時の情報と人間(社会)との関わりを、企業や自治体における事業継続管理(BCM)をもとに解き明かす。
第13回目	テーマ / 「科学」の目を通して (理工学部教員)	概要 / 近代の自然科学の背景にある「合理的精神」については、その正統性と限界性をうまく理解しておきたい。問いの世界は自由だが答えるのは不自由もいいたところ。とりわけ人間社会とそれを支える組織、経済原理の拠ってたところについて、生物学の視点からなにか気のきいたことを語れといわれても、それはとても難しい。ここでは苦し紛れに、生物学が人間という存在を<相対化>できる数少ない科学であるとの確信に基づいて、怪しい存在としての人間の、その近代になってますますその「怪しさ」を顕わにしてきたこと 怪しい/人間のノ生態学を試みてみよう。

第14回目 テーマ / 「現代社会」と文学 (文学部教員)

概要 / 1980年代以降の現代文学を取り上げ鑑賞しながら、現代(ビジネス)社会の中で私たちがどのようにアイデンティティーを確立し、人間関係を築いているのか、あるいは、多様な価値観の中で現代社会をどのように捉え、生きていくべきなのか、を学生諸君と共に考えてみたい。

【総括】

第15回目 テーマ / 専攻学問(科学)と会社 (加藤、楠奥)

概要 / インターンシップおよび就職活動直前期にあたって、会社(ビジネス社会)を自ら専攻する学問的視点から、さらには他の科学領域も含めた広い科学的視座からとらえるべく、4カテゴリからのアプローチを総括する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	「経営学・経済学」、「法学」、「総合科学」の3つの学習カテゴリーの理解度を中心に評価します。
日常点・その他	80 %	出席状況、講義内レポート、受講態度の3要素をもとに評価します。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることが絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点の多くは、この出席要件で判断されますから、受講を機に、時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

9学部から12人の教員が次々に講義を展開し、それをコーディネーター教員が講義の開始時、終了時に関連づけます。講義の多くは皆さんの専門外の分野ですから、講師が基本書を指定する場合は、事前に必ず読んでおいてください。基本書の指定は、原則として1週前の講義終了時にコーディネーター教員(加藤、楠奥)が行います。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
会社はこれからどうなるのか	岩井克人 / 平凡社 / ISBN4-582-82977-5 / 会社は何者か、誰のものか、どうなるのか。会社論の根源に迫る良書。小林秀雄賞受賞。
キャリア教育 - 歴史と未来	Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳 / 雇用問題研究会 / ISBN4-87563-230-4 / キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。

初回の授業に向けての基本書を2冊、挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、他の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができます。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠、BKCともに開設されているインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な会社観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムで、二つの特長を備えています。

一つは、後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム(5名程度)が取り組む実践的で自律的な学習プログラムであること。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部教学の再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

二つ目は、本科目が文部科学省の「平成17年度派遣型高度人材育成協同プラン」の選定プログラムであることです。日本ではまだ数少ないコーオペ教育プログラムとして学内外の注目を集めているばかりか、国の委託事業として各チームに専用のパソコンが貸与されたり、活発な学習活動への資金支援が行われます。こうして、キャンパス内にとどまらない幅広い学習活動がサポートされます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は4月上旬頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料(1万円)の納入が必要となります。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育(Cooperative Education)に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、高度な産業社会に通用する高い問題発見・企画立案能力の涵養、学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習にリンクする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、BKC開講)が夏期集中講義として開講されます。本学の大学院生のほか、大学コンソーシアム京都を通じて学外からも受講生が参加する科目で、受講により本演習の理解は一段と深まります。

また、本演習は全学インターンシップ・プログラム関連科目にも位置づけられています。同じ関連科目の「キャリア形成論」(1回生前期配当科目、衣笠開講)、「キャリア形成論」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(開講前)	【学内公募】	参加企業からの課題が2006年度末に出揃います。ただちに学内公募が2007年4～5月頃にかけて行われます。学内選考(レポート、面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
	【リスクマネジメント研修】	7月に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修」を受講します。
(開講)	【学内研究会】	7月初旬に第1回(チームの顔合わせ、課題・会社研究)が、そして9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	【プレゼンテーション研修】	9月中旬に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	【企業研修】	9月中旬に会社研究を目的に、2日間限定で参加企業に出向き研修(インターンシップ)を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	10月初旬に、専門家を学外から招き、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	【中間発表】	専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を、原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
	【成果発表】	中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員など多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。
	【報告書作成】	2007年度内に、チーム単位で報告書(120ページ程度)を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、各種レポートの提出(随時)、中間発表、成果発表における取り組み姿勢、報告書、の4要素をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取るという強い意志の上に成り立っている学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取り組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオブ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / / 日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオブ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオブ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明 / 立命館大学 / / コーオブ教育をめぐる動向とともに、コーオブ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	/ 産学連携教育日本フォーラム / / 国内外のコーオブ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫 / 東洋経済新報社 / / 産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー / ピアソン・エデュケーション / / 問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオブ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ GC § 海外インターンシップ GC

14884

担当者名 / Instructor 樋爪 誠

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い就業意識の醸成、自主性、独創性、柔軟性のある人材育成などを目的に、企業や行政機関およびNPO・NGO団体などにおいて、2週間～1ヶ月程度の就業体験を行う「教育プログラム」です。受入先の部門としては、管理・総務・営業・製造現場・研究開発部門など多岐にわたります。募集および受講許可発表などの手続きは、全て大学コンソーシアム京都が窓口となって行います。

到達目標 / Attainment Objectives

日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
	インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
	事後講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

必要に応じて適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて適宜指示する。

その他 / Others

必要に応じて適宜指示する。

国内インターンシップ GC § 海外インターンシップ GC § 特殊講義(基礎)I(インターンシップ) GC § 特殊講義(基礎)1(イ.14886
ターンシップ) GC

担当者名 / Instructor 樋爪 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い就業意識の醸成、自主性、独創性、柔軟性のある人材育成などを目的に、企業や行政機関およびNPO・NGO団体などにおいて、2週間～1ヶ月程度の就業体験を行う「教育プログラム」です。受入先の部門としては、管理・総務・営業・製造現場・研究開発部門など多岐にわたります。募集および受講許可発表などの手続きは、全て大学コンソーシアム京都が窓口となって行います。

到達目標 / Attainment Objectives

日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
	インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
	事後講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

必要に応じて適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて適宜指示する。

その他 / Others

必要に応じて適宜指示する。

国内インターンシップ(専門) GA § 国内インターンシップ GA § 海外インターンシップ GA § 海外インターンシップ(専門) C 14885
 § 国内インターンシップ IA § 海外インターンシップ IA § 国内インターンシップ(専門) H1 § 国内インターンシップ H1 § 海外
 インターンシップ H1 § 海外インターンシップ(専門) H1 § 国内インターンシップ H1 § 海外インターンシップ H1

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位認定を行います。そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、受講登録を行い、履修料(1万円)を納入し、「事前、事後研修」をすべて受講し、最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部の教学を検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論」(1回生前期配当科目、衣笠開講)、「キャリア形成論」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)および「キャリア形成論」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3年生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもチャレンジしてください。

さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、BKC開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1, 2	事前研修 / 総合オリエンテーション、インターンシップとは何か(基本的視点)、グループワーク(専攻学問の再検証、問題発見への挑戦)	
	事前研修 / リスクマネジメント研修、ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	
3	インターンシップ研修(原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とします)	
4	事後研修 / インターンシップ研修発表報告、グループワーク(学びの確認と目標設定)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前および事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習活動、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。理由なき学内研修での遅刻や欠席は、その場でF評価になります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業、団体では、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / ISBN4-7949-5661-4 / 1972年に発刊された労働解説の古典的名著

働くということ

日本経済新聞社・編 / 日本経済新聞社 / ISBN4-532-35114-6 / 日経本紙の人気連載を再構成

13歳のハローワーク

村上 龍 / 幻冬舎 / ISBN4-344-00429-9 / 人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されます。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ(専門) GA § 国内インターンシップ GA § 海外インターンシップ GA § 海外インターンシップ(専門) C 14887
 § 国内インターンシップ IA § 海外インターンシップ IA § 特殊講義(基礎)I(インターンシップ) H1 § 特殊講義(基礎)II(インターンシップ) H1 § 国内インターンシップ H1 § 海外インターンシップ H1 § 国内インターンシップ(専門) H1 § 海外インターンシップ(専門)

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位認定を行います。そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、受講登録を行い、履修料(1万円)を納入し、「事前、事後研修」をすべて受講し、最終レポートなど必要書類をすべて提出することが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部の教学を検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論」(1回生前期配当科目、衣笠開講)、「キャリア形成論」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)および「キャリア形成論」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3年生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもチャレンジしてください。

さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、BKC開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1, 2	事前研修 / 総合オリエンテーション、インターンシップとは何か(基本的視点)、グループワーク(専攻学問の再検証、問題発見への挑戦)	
	事前研修 / リスクマネジメント研修、ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	
3	インターンシップ研修(原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とします)	
4	事後研修 / インターンシップ研修発表報告、グループワーク(学びの確認と目標設定)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	日常点(事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前および事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習活動、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。理由なき学内研修での遅刻や欠席は、その場でF評価になります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

インターンシップ研修が行われる企業、団体では、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / ISBN4-7949-5661-4 / 1972年に発行された労働解説の

古典的名著

働くということ

日本経済新聞社・編 / 日本経済新聞社 / ISBN4-532-35114-6 / 日経本紙の人気連載を再構成

13歳のハローワーク

村上 龍 / 幻冬舎 / ISBN4-344-00429-9 / 人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されます。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

特殊講義(キャリア形成論II) GA § キャリア形成特殊講義 SB § ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論II) G3 § キャリア形成論 LC 12875

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業は、社会構造の大きな転換期において、学生諸君が、雇用と仕事と生活をめぐる今日的な諸問題について、多面的に深く解読する科学的思考力を獲得し、職業理解および職業的自立を通じて、豊かな人生を切り開くことに資するものとして開講する。

具体的には、若年雇用問題に焦点をあて、1)社会構造の問題として多面的な視点から理解を深め、2)自己の生き方、働き方と関わらせながら解決策を探り、3)自己の将来進路を展望し、大学での学びを一層充実・活性化させることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義はゲスト・スピーカーを中心とするオムニバス形式となる。毎回、講義に続いて質疑を行うので、受講者は常に発言する用意をすることが望まれる。あわせて、毎回講義の感想レポートを課す。なお、複数回の講義では、それまでの授業を受けて、卒業生を招いたパネルディスカッションや受講生間でのグループワークを取り入れた参画型の授業を実施する。そこでは、自分の将来、社会で生きることや働くことの意味を考え、他者と語り合いながら学んでほしいと期待しており、能動的な授業態度が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1講	「導入」中井美樹(担当教員)	
2講	「若年の働き方と大学生の就職活動」堀有喜衣(日本労働政策研究・研修機構研究員)	
3講	「若年雇用問題」～若者が社会的弱者に転落する～宮本みち子(放送大学教授)	
4講	「青年の労働問題」笹山尚人(東京法律事務所 弁護士)	
5講	「若年支援の現場」田中俊英(NPO法人 淡路ブラッツ代表)	
6講	「思春期・青年期の発達」～青年の居場所と進路選択を考える～春日井敏之(立命館大学文学部教授)	
7講	「キャリア形成と大学の教育力」平井孝治(立命館大学経営学部教授)	
8講	「ワークライフバランス社会への提案」大沢真知子(日本女子大学人間社会学部教授)	
9講	「求められる職業能力」川村由美(関西経営者協会)	
10講	「若年雇用や教育をめぐる諸課題」斎藤貴男(ジャーナリスト)	
11講	「使い捨てられも燃えつきませず」～若者が働くとき～熊沢誠(甲南大学名誉教授・職場の人権代表)	
12講	「大学での学びと職業・社会生活」各業界で活躍する卒業生と4回生の内定者によるパネルディスカッション	
13講	「グループディスカッション」	
14講	「グループディスカッション報告・まとめ」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	
毎回の出席・授業レポートと期末に試験に代わる全体を総括するレポート実施		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

キャリア形成論Ⅲ(コーオプ教育概論) GA § 特殊講義(自由選択)Ⅰ(コーオプ教育概論) T § 特殊講義(基礎)Ⅰ(コーオプ教育概論) T § 特殊講義(基礎)Ⅰ(コーオプ教育概論) C § コーオプ教育概論 G § キャリア形成論 LE § キャリア形成特殊講義 SF § 政策科学特殊講義(コーオプ教育概論) P § 特殊講義(各部門共通)ⅠRK

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、約半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラム、コーオプ演習に合わせ開講される夏期集中講義です。また、大学コンソーシアム京都を通じた公開授業でもあり、本学の大学院生をはじめ、学外からも受講生が参加する科目です。演習名の「コーオプ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオプ教育(Cooperative Education)に由来しています。こうしたことから、本講義を通じて日本では未だ数少ないコーオプ教育を教材に、産学連携による新しい教育手法について体系的に学び、高度な産業社会に適合する人材像を考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

科目名称にふさわしく、講義全体を通じて、高度な産業社会に通用する高い問題発見・企画立案能力の涵養、学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、自律的な学習意志・姿勢の確立、などを必須要件とするコーオプ教育の本質を理解し、それを実践できる理論的基盤の形成を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義にリンクする講義として、まずは「コーオプ演習」(3回生以上配当科目、衣笠・BKC開講)が挙げられます。同演習受講生は、必ず受講することが望まれます。

また、本講義は全学インターンシップ・プログラム関連科目にも位置づけられていることから、同じ関連科目の「キャリア形成論」(1回生前期配当科目、衣笠開講)、「キャリア形成論」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講も勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1日目		【導入講義】
(1回目)	テーマ / 導入 (加藤)	概要 / 1906年に米国・シンシナティ大学で導入されて以来、一世紀に及ぶコーオプ教育の歴史や、近年日米とも大きな高まりを見せるキャリア教育の動向などを解説する。
(2回目)	テーマ / 導入 (同上)	概要 / 前回講義を受け、グループワークを通じて自らの学び、専攻学問について議論し認識を深め合う。
(3回目)	テーマ / 導入 (同上)	概要 / 前回授業の成果をグループ単位で発表。終盤にコーディネーター教員より評価コメントがなされる。
第2日目		【公開講座】「産学連携教育を考える」
(4, 5回目)	基調講演「産業界から見た産学連携教育」(講師:日本商工会議所理事)	概要 / 長期で高度な内容のインターンシップ、コーオプ教育を日本でどのように組み立て、展開してゆくべきか。産業界の重鎮を招き受け入れ側の基本的な考え方を示す。
(6, 7回目)	パネルディスカッション「日本型コーオプ教育を考える」	概要 / 基調講演講師に、文部科学省、経済産業省からのパネリストを加え、シンポジウム形式で表題につき意見交換。その上で会場と双方向で議論を展開する。
第3日目		【実践講義】
(8, 9回目)	テーマ / 海外のコーオプ教育事情 (世界コーオプ教育協会理事 / 講義 + グループワーク、発表)	概要 / 国内外のコーオプ教育同行に詳しい学外講師を招き、最新のコーオプ教育情報をもとに産学連携教育を解説。それを受けて、グループワークによる議論と発表を行う。
(10回目)	テーマ / コーオプ教育を展開する (京セラ人事企画部 / 講義 + グループワーク)	概要 / 立命館大学とコーオプ演習に取組む企業担当者が講師となり、産学連携教育の課題と方向性について考える。
(11回目)	テーマ / コーオプ教育を展開する (神戸新聞社編集局 / 講義 + グループワーク)	概要 / 同上
第4日目		【実践講義】
(12回目)	テーマ / コーオプ教育を展開する (京都新聞社編集局 / 講義 + グループワーク)	概要 / 同上
(13回目)	テーマ / コーオプ教育を展開する (ホテル日航プリンス京都 / 講義 + グループワーク)	概要 / 同上
(14回目)	テーマ / 総括 (加藤)	概要 / グループワークによる講義全体の総括議論と発表。

(15回目)

テーマ / 総括 (加藤)

概要 / 総括講義の後、レポート作成。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

本講義には産業界からも受講生が参加します。グループワークなどを通じて社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、コーオブ演習受講生は、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかりと目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.**

日常点・その他 100 % 出席状況と学習姿勢、各種レポートの提出(随時)、をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、出席状況とグループワークでの議論や発表を含めた学習姿勢、さらに各種レポートの提出をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は大学院生や学外からの受講生を交え、グループワークなど双方向型の授業形式を数多く採り入れていますので、受講生自らが学び取ろうという能動的な姿勢が強く求められます。教室内でビジネス社会と触れ合う良い機会です。多くのものを学んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『キャリア教育の現場から～日本型コーオブ教育の実践と指導法、評価～』、『立命館高等教育研究』
加藤敏明 / 立命館大学 / / 日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオブ教育の概念整理と実践を論述。

『立命館大学型コーオブ教育の確立に向けて』、『立命館高等教育研究』
加藤敏明 / 立命館大学 / / コーオブ教育をめぐる動向とともに、コーオブ演習が誕生するまでの経緯を紹介。

キャリア教育 - 歴史と未来
Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳 / 雇用問題研究会 / / キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。

インターンシップ産学連携教育白書
/ 産学連携教育日本フォーラム / / 国内外のコーオブ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊

アメリカの産学連携
宮田由紀夫 / 東洋経済新報社 / / 産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。

コーオブ教育の基本書を5冊、挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

学外講師の所属する企業、団体の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

その他 / Others

衣笠、BK Cともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

コーオペ演習 GB § インターンシップ演習 LB § 政策科学特殊講義(コーオペ演習) P2 § コーオペ演習 IB

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

特殊講義(キャリア形成論I) GA § キャリア形成論 LA § キャリア形成特殊講義 SA § ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論I) W

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、様々な科学分野の視座から「自己」や「社会」、そして「立命館大学」を見つめ直すことで、これから始まる大学の学びを体系化する点に、最大の特長があります。

講義の前半は、文学や哲学を通じて「自己」を見つめます。自己理解を深めた上で、次に「社会」と向かい合います。その際、併せて「平和と民主主義」を教学理念に掲げる立命館大学の平和学についてもしっかりと学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学は全学横断的に「キャリア教育科目」を配置しており、本講義はその中に位置付けられます。各科目は、学生のキャリア発達に応じた段階的な到達目標を掲げていて、本講義は科学的な「自己理解」と「社会認識」です。本講義には、文学部、産業社会学部、国際関係学部、理工学部などから教員が登壇します。総合大学で学ぶ意味、喜びも併せて感じ取ってほしいものです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられています。同じ関連科目の「キャリア形成論」(2回生前期配当科目、衣笠開講)、「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講)、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3回生以上後期配当科目、衣笠・BKC開講)の受講にもチャレンジしてください。

さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、BKC開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ / 大学での学びを考える (加藤)	概要 / 副題「科学からとらえる自己」の意味を考え、大学における学びの大切さや意義につき解説する。後半は、グループワーク。
第2回目	テーマ / 西洋史に見る自己の在り方 (文学部教員)	概要 / 日本人とは何者か、多民族国家アメリカとの対比を含め、その掘り起こし研究の視座から自己と社会の在り方を考察する。
第3回目	テーマ / 西洋史を通じて自己と向き合う (加藤)	概要 / 前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて日本人とは、自己とは何かにつき考える。
第4回目	テーマ / フランス哲学に見る自己の在り方 (文学部教員)	概要 / フランス哲学の現象学研究成果をもとに、現代社会における人間性の危機からの回復を考察する。
第5回目	テーマ / フランス哲学を通じて自己と向き合う (加藤)	概要 / 前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて人間の尊厳とは何か、自由とは何かを考える。
第6回目	テーマ / 多文化社会と自己 (産業社会学部教員)	概要 / 異文化間コミュニケーションギャップの観点から、多文化社会を考える。独創的な自己理解法を伝授する。
第7回目	テーマ / 立命館大学の建学精神に学ぶ (国際関係学部教員)	概要 / 「平和と民主主義」は立命館大学の建学精神である。平和学をもとに、立命館大学で学ぶ意義につき2回連続講義形式で考察する。
第8回目	テーマ / 立命館大学の建学精神に学ぶ (同上)	概要 / 2回目の講義は、グループワークをもとにした討論形式の授業。
第9回目	テーマ / 数学でとらえる自己と社会 (理工学部教員)	概要 / 数学は哲学にも通じる広い精神世界を持っている。数学の女王と呼ばれる数論の世界観をもとに、自己と社会との関わりを考察する。自己形成の新領域。
第10回目	テーマ / 環境保全に学ぶ自己と社会 (理工学部教員)	概要 / 環境保全活動を通じて、具体的には自然や生物と直接的に触れながら自己と人間社会の在り方を探る。造網性クモ類研究の視座からの社会観も紹介。
第11回目	テーマ / 経営学に学ぶ自己と社会 (楠興繁則インターンシップ教学委員会講師)	概要 / 経営学の視点から自己と社会の関わりをとらえる。
第12回目	テーマ / 生物システムに学ぶ自己と社会 (理工学部教員)	概要 / 生体工学の立場から脳の科学、ストレスのメカニズムなどをもとに自己と社会との関わりを考察する。自然科学から自己を見つめる斬新な試み。

第13回目	テーマ / 働くこと、生きること (加藤)	概要 / 様々な科学分野の視座からとらえる自己と社会を総括する。併せて、西日本最多の女子学生が在籍する立命館大学の現状に照らし、キャリア形成の在り方を学ぶ。
第14回目	テーマ / 働くこと、生きること (加藤 + キャリアアドバイザー)	概要 / 本学を卒業しビジネス社会で活躍するキャリアアドバイザーを招き、パネルディスカッション形式で受講生と双方向で展開する授業。司会は加藤が務める。
第15回目	テーマ / 総括 (加藤)	概要 / 立命館大学における学びの環境を概観する。キャリア教育科目、産学連携教育(インターンシップ、コーオプ演習)などの紹介と概説。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	自己理解とその延長線上の社会認識の理解度を中心に評価します。
日常点・その他	80 %	出席状況、講義内レポート、受講態度の3要素をもとに評価します。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の最大の留意点は、出席要件です。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることが絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきま。80%を占める日常点の多くは、この出席要件で判断されますから、受講を機に、時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学部やキャンパスを超えて数多くの本学教員が次々に講義を展開し、それをコーディネーター教員(加藤)が講義の開始時、終了時に関連づけます。講義内容の多くは皆さんの専門外分野であると同時に、受講機会の極めて少ない貴重な体験となるはず。ものの見方、考え方を広げる絶好の機会ですから、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代科学の誕生(講談社学術文庫、上・下巻)	H・バターフィールド著、渡辺正雄訳 / 講談社 / / 科学史の不朽の名著。人間社会の価値観の変遷とともに科学の歴史を紐解く。
はじめての哲学史講義	鷲田小彌太 / PHP研究所 / / 古代ギリシャ哲学から近代西洋哲学、現代の構造哲学、言語哲学を表題どおり分かりやすく解説する。

前半の授業(西洋史、フランス哲学)に向けての基本書を2冊、挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、他の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができます。

その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠、BKCともに開設されているインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己観や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

キャリア形成特殊講義 SG

16570

担当者名 / Instructor 水野 篤夫、斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

青少年の自立と成長をどのように促進するのか。この問いは青少年教育において古くからあるものだ。しかし、ニートや引きこもりの増加に見られるように、若者を巡る課題や社会環境は複雑化し続けており、近年、改めてクローズアップされる問いとなっている。こうした現況にあって、青少年の自立と成長を促進する専門職(いわゆる「ユースワーク」)に対して注目が集まっている。

本講義では、若者の自立と成長をどのように促進するのかという問いに対し、実践的な答えを提示しつつ、受講生とともに新たな企画・政策の立案を試みたい。その際、実際に「わかものを元気にする仕事」に従事している方々をゲストにお招きする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義を通じて、個々の青少年の課題と向かい合うと同時に、そうした課題を生起させている社会構造にも目を向けることを受講生には期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション - ユースサービスとは何か?	ユースサービス 青年 若者 思春期
第2回	現代日本の青少年が抱える課題を考える(ワークショップ)	ポスト青年期
第3回	ユースサービスの実践から学ぶ - 非行・犯罪と青少年	非行 少年犯罪
第4回	ユースサービスの実践から学ぶ - セクシュアルヘルスと青少年	セクシュアルヘルス リプロダクティブヘルス
第5回	ユースサービスの実践から学ぶ - ニート、フリーターと青少年	ニート フリーター 就労
第6回	ユースサービスの実践から学ぶ - 不登校、引きこもりと青少年	不登校 引きこもり
第7回	ユースサービスの実践から学ぶ - ドラッグ依存と青少年	依存 薬物
第8回	ユースサービスの実践から学ぶ - 多文化共生と青少年	多文化共生
第9回	ユースサービスの実践から学ぶ - 政治参加 / 社会参加と青少年	政治参加 社会参加
第10回	海外のユースサービスの活動を知る	イギリス ユースワーク
第11回	ユースサービスの基本プロセスを学ぶ	ユースサービスの企画 / 政策の立案、実施、見直し、フィードバック
第12回	現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
第13回	現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
第14回	新たなユースサービスの取り組みを企画する - グループ発表会	
第15回	新たなユースサービスの取り組みを企画する - グループ発表会	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	グループ発表およびレポートの提出
日常点・その他	60 %	講義の最後にミニレポートを課す場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、青少年支援のあり方について、多角的に学ぶと同時に、受講生自身が新しいユースサービスプログラムを考案する場でもある。したがって、したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others